資料２

函館市教育振興審議会答申（案）

「令和８年度（2026 年度）教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）（令和７年度（2025 年度）対象）」について，次のとおり答申する。

記

「教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）」については，１年間の教育委員会の取組を客観的に把握し,成果と課題を整理して取組の改善・充実につなげ，効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを目的として作成されるものである。

今回諮問のあった本報告書（案）においては，教育委員会の活動状況や施策について点検および評価が行われており，それぞれ具体的な取組内容を把握することができる。

さらに，各施策については，事業ごとに過去５年間の取組実績のほか，成果と課題や評価，今年度の状況が示されているなど，点検および評価に関して必要な事項が記載されており，上記目的に照らし，適当である。

また，各施策の評価方法については，ＰＤＣＡサイクルが明確化しており，本審議会からの意見をもとに，進捗状況，成果および課題を踏まえ，より客観性をもったものとなっている一方で，評価における焦点や評価の基準を明確化するなど，検討の余地が見られる。

各事業については,函館市教育振興基本計画に基づき取組を進めており，概ね,年度を通して着実に実施されている点については高く評価できるが，一部の事業において，課題の長期化・顕在化が見られることから，その要因がどこにあるのか，検証を続ける必要がある。

なお，審議会の中で各委員から出された主な意見については，以下に示すので参考にされたい。

教育委員会の取組に対する意見

Ⅰ　教育委員会の活動状況に関する点検・評価

・教育委員会の会議録や刊行物等の情報について，より広く市民に知ってもらい，理解・協力を得るためにも市ホームページへの掲載や関係者への配付だけではなく，市広報誌の活用も一つの方法と考える。

Ⅱ　教育委員会の施策に関する点検・評価

（全体を通して）

・教育委員会における９割以上の事業が，年度を通じて着実に実施され，安定した業務運営が行われている点については高く評価できる。

・一部の事業において，課題の長期化・顕在化が進んでおり，教育行政を取り巻く構造的な要因もあるが，個別事業のボトルネックがどこにあるのか検証を続けていただきたい。

・点検・評価報告書は，基本計画の体系に沿って作成されているが，基本計画の体系と事業概要（目的等），取組実績に相違が見られる事業や評価の焦点が教育委員会の事務なのか，学校なのか，児童生徒なのかが曖昧になっているものもあり，評価方法について検討する必要がある。

・学校教育に関する事業においては，結果を得るまでに相当の時間を要し，それらの成果をあげるためには，学校，児童生徒・保護者，地域，関係機関等の複数の因子が複雑に影響していることから，それらの取組の点検や評価を行う場合は，目的と取組実績，成果を整理する必要がある。

基本目標１　変化する社会を生きる力の育成

施策１　確かな学力を育む教育の推進

・専門的な指導で学ぶ楽しさやできる・わかる実感を味わうことは，学習意欲向上に直結するので，小学校における学力向上非常勤講師の配置事業は必要である。

・学校のＩＣＴ運用に関して支援を行うＩＣＴサポーターの存在は，学校においては大変心強く，整備や活用支援，活用事例の提示等，教員の活用力向上のためにも必要である。

・家庭学習の習慣を定着させるには，小学１年生から学校の協力が必要不可欠であり，１日 10 分でも机に向かう時間を作り，定着につなげることが必要である。

施策２　豊かな心を育む教育の推進

・スクールカウンセラーの派遣回数を増やすことは，児童生徒，保護者等に

とって大変有効である。
・自己有用感等を高めるための指導には，「授業改善・授業づくり」と「学級経営」の両方の視点が必要であるが，不登校の学びの保証を含めて整理すべきである。
・部活動地域支援者登録の際は審査基準を明確にし，児童生徒が安心安全に部活動ができる環境づくりに努めていただきたい。

施策３　健やかな体を育む教育の推進

・健康教育に関する望ましい生活習慣や食習慣については，スマートフォン等の使用も含めて，就学前からの保護者への情報提供，啓発が不可欠である。
・食育で朝食の大切さを教えるのは必要だが，生活習慣の個々の見直しから指導していく必要がある。
・安全・安心な学校給食を提供するためには，調理場の老朽化や食数減少のみならず，栄養教諭の減少や資質・能力，食の安全の徹底の観点からも，学校併設ではなく，調理場のセンター化を図っていくことが必要である。
・学校の防災対策として，避難器具を整備するほか，火災を想定した避難訓練時には，救助袋や消火栓などの使い方を教職員に周知する機会を設けていただきたい。

施策４　幼児教育の充実

・小学校教育との円滑な接続には，幼児教育施設と小学校間でのアプローチカリキュラム，スタートカリキュラムを活用した連携のほか，職員間交流や相互に見学を実施するなど，一歩進んだ連携が今後の充実には必要である。

施策５　多様なニーズに対応した取組の充実

・通常の学級における特別な配慮を要する児童生徒数は，年々増加傾向にあることから，特別支援教育支援員の配置事業は対象児童にとって大変重要である。
・学校に配置している不登校支援コーディネーターは，函館市の特徴的な施策の一つでもあるため，取組について記載すべきである。

学校施設の維持管理

・災害時に地域住民の避難場所として想定している学校の教室には，災害情報を得られるよう，地上波テレビを受信できるような整備が必要である。

基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進

施策１　家庭・地域との連携・協働の推進

・学校運営協議会委員等の研修は，委員の交代等もあることから継続的に実施していくことが必要である。

・学校図書館の地域開放については，どのように安心して地域住民を受け入れられる運営体制を確保するかを明確にした上で，継続することが望ましい。

施策２　学校における指導体制等の充実

・学校における業務改善は，時間外在校等時間の過去５年間の推移から，これまでの教育委員会および各学校の取組が成果となって現れている。

市立小・中学校の再編の推進

・児童生徒にとっての望ましい教育環境には教員も含まれるが，教員のなり手不足による教員の欠員という課題もあることから，全ての児童生徒の充実した学びのために，学校再編は進めていかなければならない。

基本目標３　函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成

施策１　函館への愛着や誇りを育む教育の推進

・市立函館高等学校独自の学校設定科目である「函館学」は，地域の問題を自分事として考える良い機会である。

・地域と連携した学習活動における外部講師を招聘した学習機会は，日常の学びとは異なり，キャリア教育につながるものも多いため，積極的に活用していくべきである。

施策２　未来へ飛躍する力を育む教育の推進

・英語教育，外国語活動は，小学生にとっては外国語を初めて学ぶ児童も多く，ネイティブな発音に触れることは，その後の外国語の学びへの興味関心に大変有効である。

・「はこだてっ子職場体験協力事業所一覧」では，地域の経済や市民生活を支える多種多様な業種の民間事業所が賛同しており，地元の「生きた現場」を児童生徒に提供する環境を整備することは，大変意義があるため，今後は，時代の変化に対応した新たな業種の企業にも賛同していただきたい。

・理科，算数･数学授業の充実について，算数･数学に加えて理科の教員研修も実施していただきたい。

基本目標４　生きがいを創り出す生涯学習の推進

施策１　生涯学習活動の促進

・生涯学習に係る講座では，縄文文化など，函館の特色を生かした講座を充実させることにより，函館市の魅力自体の高まりにもつながり，さらなる促進を図れるのではないか。

施策２　社会教育活動の推進

・家庭教育支援事業の推進はとても大切な取組と考えるが，「家庭教育セミナー実施状況」を見ると十分とは考えづらく，実施回数や参加者の増加に

向けて，一層の周知と派遣先における開催日程や開催場所の工夫が必要である。

基本目標５　心の豊かさを育む文化芸術の振興

施策１　文化芸術活動の促進・支援

・児童生徒にとって，伝統音楽や茶道などに触れる機会は特に少ないため，文化芸術アウトリーチ事業は貴重なものであり，日本の良さを改めて知る・感じることができる大切な事業である。

・部活動の地域展開では，受入団体を積極的に確保・創出し，活動ができない児童生徒が生じないよう対応していただきたい。

基本目標６　健やかな心身を育む運動やスポーツの振興

施策１　運動やスポーツの振興

・戸井地域の地域スポーツ活動への参加機会であるモルック多世代交流会は，世代を問わず交流できる大変有意義な取組であるため，他地域にも広がっていくことを期待する。

・大規模スポーツ大会・プロスポーツイベントやスポーツ合宿などの誘致活動の成功が着実な実績を生み，スポーツを通じた交流人口の拡大や地域への活気の創出に大きく貢献しており，補助金交付状況からも十分な成果があったほか，市民のスポーツへの関心を高めるだけでなく，スポーツツーリズムの推進にもつながり，スポーツの振興として大変意義深いため，今後も継続していただきたい。